

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成16年
2月号

毎月23日発行
通巻402号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成16年2月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



春を告げる使者・赤蛙 井手 泉さん撮影(文・6頁)

昭和55(1980)年初め頃の座談会から

大倭紫陽花邑に住んで(6)

「前進友の会」の皆さんを迎えて

大倭会館にて

修行の第一歩は肥汲み

矢追鈴月 大滝君がここに来た頃は、食事の時でも遅くに出てきていたなあ。法主 遅くに来たら食事が無い時もあるし。

青山目元 昇ちゃん(※豊唾の邑人)に上前はねられてなあ。

杉本順一 食堂で残っているご飯を上前はねる人がいるから、その時間内に行かないと食いはぐれることもあるし大変なんですよ。(笑)

鈴月 始めはみんなの顔を見られへんかったやろ。みんなと違う方を向いているから、「そんな格好の悪いことすなーっ!」と、えらい声で目元さんに怒られてた。(笑)

大滝君も「何でそうしなければいけないんですか?」とだいぶ聞いていたわ。

本人はどうやったか知らんけれども、傍から見ているとホントに自分で相当努力しているんやなあと思えました。ここに来るまでは家の中で閉じこもって生活していてもを言わなかった子が、パーッと走って来たかと思ったら、「おはようございます!」と必死な声で挨拶してねえ。

それからは、みんなと一緒に仕事をやるようになってたわなあ。

目元 あんまり言うことを素直に聞くものやから、嘘かいなあと思いましたわ。自分を偽っているんかなあ。私もよく怒ったから、本人が嫌やと思ったら逃げ

て行くやろうし、逃げたら逃げたでその時やと思
つていました。「もう逃げて行きよるかなあ」と
思ってたけれど。(笑)

杉本 来た日に、「帰りたい時は言うてさえくれ
たら、いつ帰ってもええ」と、言うたんです。そ
れから顔見る度に、「いつ帰ってもええで」と言
つていたし、「いつまで居れ」とは絶対に言わな
いからね。

大滝哲也 ハイ、そうですね。

日元 昔のことですが、「大倭での修行の第一歩
は肥汲みからや」とよく言われました。それを大
滝君に言ったら、「これ一番かありません」と始
めは言っていました。(笑)

法主 それはかなんやろ。

日元 その内、「この頃、肥汲みが楽しくなつて
きました」と言っていました。それは嘘だったか
もしれません。(笑)

法主 人間みな大便するんやから、それを汲んで
畑へ持って行くんや。ちよつと今の若い子では出
来ないことやねえ。

終戦直後ここへ入った当初に、修行したいとか
修養したいとか言つて来た者に、私は口では教え
ませんでしたが、「自分が口から飯を食っているん
やから、尻から出たものは自分で始末せえ。それ
が人生の修行の第一歩や」と、みんなに肥を担が
せたんです。私自身も肩に血が出るぐらい担いで
きましたしね。私も当時は三十代でしたから、み
んなと一緒にやっていたんです。

今ではもう年寄り、お爺やわなあ。だからみん
なが苦労してくれるけれどね。言うてみれば、床
の間の置物みたいなものや。何かしていても「そ
んな無理をしたら困る」とか若い者が言
うてくれるしね。

最近では寒いし私も冬眠しているけれど、それで

も三月になつて暖かくなつてきたら、ごそごそと
畑へ行きますよ。今は自分の意志で仕事をしてい
るのは畑だけなんです。六月の田植えの時は、神
さんの行事ですから、苗の一つ一つに祈りを込め
て必ずそれはします。やつぱりどうしても、私は
土と縁切れになつたらあきません。畑へ出て農作
物を育てる、これは子供を育てることと同じ気持
ちですからね。葉の色ひとつ見ても、「肥が切れ
ていないかな、土は大丈夫かな」、あるいは「虫
がついていたら取つてやらなあかなあ」とか、
気長に育てていかないと野菜というものは今日植
えたから明日食べれるものでもないしね。

私が一番好きなのは、やつぱり畑の仕事ですね。

肉体は大事な借りもの

法主 今まで医者にかかったのは歯医者だけなん
です。薬は飲んだことがない、注射もしたことが
ない、これだけでもだいたい得していますよ。一生
かけてお金に計算したらだいたい儲けていると思
いますね。お金だけでなく、精神的にも苦痛がない
分儲かっています。えらい利益ですよ。(笑)

でも、畑へ行かないとやつぱり駄目ですね。畑
では「入院しているんやで」と言いながら仕事し
ているんです。精神的に肉体的に病気を治しても
らっているんやからね。別に目立った病気はない
けれども、冬こうして家にこもっていたら、細胞
の中にも汚物が溜まっています。それを春の、も
のが開いていく時期に、畑で仕事をして血液を回
して、毛穴から冬にこもった汚物を出さなければ
次の冬に駄目になります。やつぱり人間の身体も
半期半期に変わっていきます。だから、もう少し
暖かくなつてきて芽が出てくる頃から畑で仕事を
しだして、それから夏の間も汗を流しておく、

今度の冬に病氣しないんです。そういうように、
肉体というものは循環しているんですから、言う
てみれば自然の草木と一緒になんです。人間の肉体
は歩く植物みたいなものですし、自然の支配下に
みんなあるんですよ。

自分というものは自然の力で生かされているん
やから、それだけに命のある間は自分自身の肉体
は自分で守るということですね。肉体は借りもの
ですから、ある一定時期が来たら老化して、また
土に戻つてしまうしね。生きている間だけ借りて
いるんやから、肉体そのものは私と違います。も
し私が肉体だったら、生きようと思つただけの年
月生きられたらいいけれど、自分の思惑がどうあ
ろうと、やつぱり肉体は死んでいきます。意思通
りにはならない。意思と肉体とは別なんですよ。
肉体は借りものですから大事にせんとね。私の考
え方はそんな感じなんです。

そんなわけで、病気を知らんと言えばおこがま
しいけれど、お陰さんでこの歳まで無病息災でき
ています。

もうすぐ七十歳に手が届きますけれど、やつぱ
り六十五歳を過ぎてくると老化してきたのが自分
でも分かりますね。若い時はもつと身体もがっし
りしていたのに、細胞はだんだん減つてくるし筋
も縮んでくるし、頭の毛は白くなつてくるしねえ。
それは半面寂しいものですよ。

だから、精神的にも肉体的にも、いろんなこと
はやっています。畑で仕事をしたり、体操をやつ
てみたり、健康管理は自分でやっています。それ
でも病氣になつて死んでしまつたら、そこまでの
寿命だと思つていますからね。だから、医者にか
かる時は死亡診断書を書いてもらう時やろなあと思
つています。(笑)

もう七十歳まで生きたら後は何年生きても一緒

ですわ。それよりも脳卒中で、パツとお迎えが来たらええなあと思ってるんです。けれど、それは分からんわな。こんなこと言うて、五年も十年も生きてる人が世間にはたくさんおるからね。自分でも分からんけれど、一日の患いでパツと心筋梗塞か脳溢血か、まあ、頭の病気で死にたいなあと思いますね。その方が本人は楽やもんね。だからそれは祈ってます。そう言うて自分で喜んでるんです。脳溢血がええなあ、動脈が弾けるようなね。それやったら瞬間や。苦しみも何も無い、瞬間に意識不明になくなっていくわ。それが一番ええわ。

杉本 自分で死んだのに気がつかなかったりしてね。「わし死んだんかな？ 死んでないんかな。」って。(笑)

法主 ホンマやな。ちよつと迷うかもわからへんなあ。

杉本 寝ているつもりやったりして……。

鈴木 エドナー・コックスさん(※大倭に来たことのある英国婦人)がそんなこと言うてたで。自分が死んだのか死んでないのか分からんような話を……。

杉本 やつぱりそういうのが霊的に出てくるんですかね？

鈴木 コックスさんは浮遊霊と言っておられたな。日元 事故なんかで死んだら、自分が痛いも何もあらへんやろな。

杉本 また自分が死んだことあるみたいなこと言うて。(笑)

日元 (霊界で)気がついてみたら夢を見ていたような感じかなあ。

法主 ボクシングの選手おるでしょ、この頃、テレビによく出ている人。
日元 ガッツ石松。

法主 そうそう、頭のへんをガーンと殴られると、一番気持ちが悪えらしいな。天国行くみたいらしいで。普通やったら、頭打って痛いと思うやろうけれど、本人が「あのくらい気持ち良いことない」と言うていたよ。(笑)

鈴木 起き上がって来る時あるでしょ、「あの時は、やる気で起きてくるのですか？」とテレビで質問していたけれど、そんなのは何もなければよ。ふわーと起きてくるらしいで。(笑)

法主 夢からすーつと覚めてくるような感じかな。なんか余談ばかりやなあ。(笑)

男性B 余談の方が面白かったですよ。

女性A 普段の様子がよく分かっていいですね。

夫婦喧嘩は、いちやつき

女性B 大倭のような共同体での男女関係はどういう感じなんでしょう？

法主 普通の世間と一緒にですよ。ぜんぜん変わりないですね。

女性B トラブルが起こったりしませんか？

法主 ここには夫婦も独身もたくさんいますが、トラブルはありませんよ。これは私の耳に入っていないだけかもしれないが、間に入って話をつけないければならないこともありせんしね。

杉本 みんなの問題と違いますからね。個人的な問題やからね。

女性A 夫婦喧嘩もないんですか？

杉本 さあ、それはどうでしょうか？(笑)

法主 これも個人の問題ですからねえ。

法主 これはあるでしょ。でも夫婦喧嘩は喧嘩と違います。あれはいちやつきですね。大きな声を出して喧嘩している声は聞こえるけれど、後は尾を引かないしね。そういうようなことはよくあ

りますよ。ここ(日元さん)は嫁さん死なして可哀想やけれど、夫婦喧嘩の代表ですわ。(笑)

でも夫婦喧嘩は個人の問題ですよ、そんなところまで構いに行く人はいませんね。「またやつとるなあ」で終いです。また夫婦というのは知らん間に勝手に治まっているしね。生活の中の何でもないちよつとした食い違いで夫婦喧嘩というものは起こるんです。憎しみの喧嘩ではないからね。

句が来たら治まるから、「ほつとけ」という感じですね。

ここでは、男女のことでのトラブルは案外ないですよ。また傍の者が無関心やからね。

杉本 いや、関心はあるんですよ。(笑)

夫婦はまた別ですけども、男女のことに關して噂する者はしたらええしね。ここに人がただたくさん集まっているというだけで、大倭と世間がそんなに違つたらおかしいですよ。

法主 お互いに良かったら、それで結婚したらよいしね。それについては別に問題も何もありませんよ。

杉本 恋愛のことですから、大倭の中の者同士でしなければならぬこともないしね。外へ行つて探しても良いし、それは自由ですから。

法主 だいたいここで育つた女の子は、結婚したら外で暮らしている者の方が多いですよ。ここで結婚するとか、ここで暮らさないといけないとか、そういうこともないですからね。

まあ余所の男性と結婚する時も、個人の家庭からは親の立場で嫁さんに出しているんですからね。世間並にみんなでお祝いして、きちんと送り出していますよ。

その代わり外で所帯を持つても、婿さん連れてしよつちゅう帰ってきます。ここが嫁さんの親の家、親元ですからね。(続く)

あじさいアルバム④

法主様と一緒に

●吉田 佐登彌

私は、法主さんとの思い出として、一番心に強く残っていることは、大倭病院へ勤め始めたころ、お会いする度に「佐登彌、頼むでよ」と言っていて下さったことです。当時の私は駆け出しの事務員でしたので、法主さんをはじめ柴地社長（当時大倭殖産の社長）さん他、周りの方からも「頼むで」と言っていて頂いたものの、何の力もない私に果たして何が出来たのか、自分の役目は一体何なのかを考えました。

以前法主さんは、「ここに来た人がこの大倭で最期を迎えられて、よかった」と、思ってもらえるようにとのお考えで、各施設や病院を建てられたとお聞きしたことがあります。そこで私なりに、そのお気持ちを少しでも受け継ぎたいと思い、病院の窓口に来られた方への対応を考えました。「こ



平成5年10月17日大倭病院の旅行 伊勢神宮にて

こにすれば何とかしてもらえらる」「ここにすれば安心」と、来て頂いた方にそう思っていて頂けるよう、心掛けるようにしました。

縁あって大倭神宮の近くに嫁ぎましたが、法主さんに付けて頂いた私の名前「登美の里」に生まれたので「佐登彌」。その、とみのさとで暮らしております。法主さんの「頼むでよ」の言葉が今も私の中に生きつづけています。

●青山 元子

今回原稿の依頼を頂き、一生懸命思い出して『これだ?』と思いついた事をお話します。

私は大倭印刷で仕事をしているのですが、法主様の本（ことむけやはす 一・二）二冊の編集に携わっていた瞬間が法主様と一緒に感じた事です。法主様自身の書かれた原稿を左手に、マウスを右手に持つて必死で編集作業を進めました。本の完成までには何工程もあり、私のパートはその工程の一部分に過ぎないのですが、その編集の時間だけは、法主様の原稿を独り占め出来る貴重な時間でした。

私の第一印象の法主様は背が高く細くロマンズグレーのおしゃれなイメージの方でしたが、書かれる文字は何となく丸みのあるふわっとしたもので、心いつぱいの包容力を感じ、編集作業中は必死でしたが、かえって精神集中が出来、心地よい時間が流れました。今思い出すと役得であり本当に穏やかな気持ちになりました。

法主様には、色んな事でいつぱい助けて頂き、導いても頂きました。本当に心から感謝していま

す。
その感謝の気持ちを忘れずに、毎日元気で暮らせるように頑張っていこうと思います。



我が愛娘・美子都
(平成6年12月30日生後14日目・県立奈良病院より退院した日)
法主様とはじめての対面!

●矢追 尚美

私が嫁いで来て、法主様が帰幽されるまでの四年足らずの間で、とても印象に残っている事は?と問われると正直言つて戸惑います。



平成6年8月21日の弥栄踊りで談笑



昭和48年6月17日 すさのお会第37回文化行事
鏡作坐天照御魂神社(略称 鏡作神社)にて

こちらの生活に慣れる事に懸命だったそんな私を、法主様は「孫の嫁」としてそっと見守って下さっていたと思います。生きておられたら、色々なお話を聞かせて頂きたかったと思いますが、肉体はなくなってもいつもどこかで見守って下さっていると実感しておりますし、法主様の暖かくて、柔らかな手を今でも忘れる事ができません。

●反保利通

私達大倭で生まれて育った者にとって、法主様はなくてはならない存在の人でした。何故ならば法主様の元へ飛び込んできたおじいちゃん(青山日元)が、法主様と一緒にこの大倭の地を切り拓いていなければ、私達もこの世に生を受けることがなかったであろうと思うからです。

法主様は私が生まれて直ぐに「おー、利通出てきよったか」と言われたそうで、名前ももう決めて頂いてたみたいだったと親から聞いた事があります。

私にとって法主様を神様やお医者さんに見える

事もよくありました。幼い頃に大倭の文化行事で飛鳥へ行つた時、蜂の大群に追いかけられ、頭や手足などあらゆる所を刺されました。特に頭部は腫れて熱が出てきました。帰宅後直ぐに法主様に手当てして頂くと日が経たずに治つたのを覚えています。また、仕事をしだしてから印刷工場内の機械で怪我をしたときも早く治つたのを記憶しています。そんな時は何か不思議な力を持つておられる神様のような人だなあと思いました。

足を弱くされてから瑞光院までお送りした時「利通は力が強いのか」と、言つて下さった事がまさか最後のお言葉になるとは思いませんでした。誰一人分け隔てなく、愛情と優しさを注いで頂いたことは絶対に忘れず、日々精進したく思いますので、これからも大倭と私達を見守つて下さい。「法主様有難うございました」

●吉澤 秀子

私が初めて法主様にお会いしたのは、昭和四十七年七月一日。大倭殖産株式会社に入社して、社長である法主様にご挨拶の為、故柴地氏に連れられて行つた菅原園の応接室でした。私にとつての会社社長とは遠い存在で、凄く緊張していた様に思います。応接室のソファに母さんと並んで座つておられた法主様は、社長のイメージとはかけ離れた存在でした。

その時に法主様が言われた「これからずーっと仕事せなあかんのやから、楽しく仕事しーや、仕事に興味になつたらええのや」と。この言葉がすーっと入つて離れなくなりました。学校を出てアルバイトをしたことはあつたけど、事務職をした事はなかったの、いきなり帳簿つけ、電話取次ぎで、仕事は分からない事だらけ、おまけに男性ばかりで女性は私一人だけ。楽しくないどころか辛



平成6年10月30・31日大倭会文化行事一泊旅行
下呂温泉にて

い事の方が多かった様に思つてたし、友達の中でも仕事を楽しいと言う人は誰もいなかった。でもあの言葉がいつも気になつて……。

少しずつわかつてきたことは、仕事をやって行く中で、チームワークがうまくいってれば何か問題が起つたとしても解決出来ると思えるのです。そうすれば仕事も苦なく、楽しく出来るのではと。また置き換えると、親子、夫婦間、すなわち人間関係をいかにうまくこなすかに尽きる。これがいつも法主様の言つておられる「みんな仲よう」に行き着くんですよ。

あれから三十一年が経ち、次の世代の人々に助けていた、老眼鏡を掛けながら、未だ殖産の机に向かつて居座つています。私も年と共に気が少し長くなったのか、色々な角度から物事を考えて、日々新しい心の発見をしています。残された時間、法主様とお話した言葉の意味を自分の心の中にしっかりと埋めて行きたいと思えます。

春を告げる使者・赤蛙

井手 泉

「春は名のみ風の寒さや 谷のうぐいす歌は
思えど……」と唱歌にうたわれているように、立
春を過ぎても長引く残寒のさ中では、人も鶯も春
の訪れを急かされる思いで待ちこがれます。そんな
折しも、水溜まりの残る里山の田んぼに、早くも
春の到来を告げる使者が現われます。赤蛙の仲間
の二ホンアカガエル（日本赤蛙）とヤマアカガエ
ル（山赤蛙）です。

その年の気候や地域にもよりますが、奈良市や
その近辺では二月の初旬に繁殖が始まり下旬に最
盛期を迎えます。ことに温かい雨の降る夜などは
盛んにメスを求めるオスのラブコールが聞かれま
す。「キョッキョッキョッキョ……」と、か細い声で
鳴くのが日本赤蛙で、「キヤララ、キヤララ……」
と、やさしく鳴くのが山赤蛙です。ちなみに、奈
良県南部などの山奥の雪渓でも同じ頃、別種の赤
蛙（流田子蛙）が「ググググ……」と、低く溪流
の水底で鳴いて幽谷の春を謳歌します。

このように、日本の春はこんなに早くから、蛙
たちの恋の歌が始まっているのです。

矢田丘陵の日本赤蛙

日本赤蛙は、本州、四国、九州に分布し、体長
はふつう34〜67ミリでメスが大きく、体色は赤褐
色、橙褐色、暗褐色など変異に富んでいます。特
に産卵期のメスは鮮やかな朱色になり産前は腹部
が丸々太っています（写真）。普段は水に入るこ
とはほとんどなく草地や林縁で生活しています。
元来は個体数が多く平地でよく見かける、スマー

トで美しい日本の蛙の代表です。

しかし近年は少なくなり、奈良市西部の矢田丘
陵の麓の、昔彼らのメツカであったエリアでも、
年々減少の一途をたどり最近ではわずかしか見ら
れなくなりました。宅地開発、道路造成、農業や
生活排水による汚染、乾田化による地域全体の乾
燥化、その他色々複合要因によりです。

一方、丘陵部の産地においても確実に減少して
います。そこで看過ごせないのが自然公園の造成
と整備による自然破壊です。これらは矢田丘陵の
場合も例にもれず、最も生きものの多い豊かな地
域を狙って林や湿地や池を破壊し、多様な動植物
の生育しにくい単純な林や草地や池に造り変えて
いるからです。しかも「自然の愛護」や「自然の
大切さ」等という美名のもとに税金を使って破壊
しているのですから以つての外です。その影響で
丘陵部の日本赤蛙も激減しました。

「国栖奏」の山赤蛙

山赤蛙は前種より大形で体長42〜78ミリ、体色
は前種に近い赤褐色で色々の変異があります。繁
殖期は前種と同じ頃か少し遅れて始まり、前種よ
り山間部に多く見られます。繁殖期以外は森林の
地上にいるのがふつうです。また、山赤蛙は食料
として美味しいので「山蛤」ともよばれ、昔は漢
方の薬用としても広く利用されていたようです。
しかし本種もまた近年は各地で減少傾向にあり、
例えば奈良市東部の柳生方面では、山赤蛙のいた
環境が丸ごと消えてしまった所もあります。

また、別の余談に及びますが、吉野郡吉野町の
浄見原神社で毎年旧正月に行われる、有名な伝統
行事「国栖奏」の「毛瀾」・山赤蛙にまつわる現
状をお知らせします。「国栖奏」はご存知の方も
多い古式床しい舞楽ですが、その神饌として奉納

される土地の産物五品の中の一つである「毛瀾」
は赤蛙で、「素性正しく姿が良く上品で、食べる
と美味しく、跳ぶのが素早い」とされています。

ところが、その赤蛙が地元の国栖で近年減少し、
数年前の国栖奏では、他処で捕えてきた雨蛙を奉
納したことがありました。但し、当事者は赤蛙の
オスだと思っていたようですが、写真を見る限り
では赤蛙でないことだけは明白でした。神饌の毛
瀾が赤蛙でないのは、「毛瀾ない」（＝大和の方言
で「味気ない」の意味）と冗談を言うわけにはい
きませんし、アマガエルもアカガエルも大差ない
と笑ってはいられません。

爾来、地元の国栖奏保存会では、前年の秋に土
着の立派な赤蛙を採集して、民家の土間の穴で大
切に囲って越冬させ、これを翌春の国栖奏で奉納
しているとのこと、誠に心細い赤蛙事情です。

由緒のある無形文化財の保存のためにも、国栖
における山赤蛙の生息状況のことが心配になり、
平成十二年に川端一弘さんと現地調査を行ったこ
とがあります。その結果、山裾の水田域の小さな
湿地などで局所的ながら卵塊が確認できましたの
で、その湿地を埋立てないように地元の人にお願
いをし、目下のところ見守っています。

●表紙の写真について

写真は前の方で述べた矢田丘陵の日本赤蛙で、
そば降る雨に濡れながら、真暗な夜の山田で写し
たものです。水路のあちこちで抱接したカップル
や、メスの現われるのを待ちあぐんでいるオスタ
ちや、メスをめぐる争奪戦や、恋敵に蹴とばされ
て口惜しがるオスなど、暗闇の舞台で展開されて
いる微笑ましいド真剣な恋のドラマが、輪を描く
水の波紋を透かして見られ、実に愉快でした。

痩せ蛙負けるな一茶これにあり

（合掌）

「隆家」の頃の法主 (7) 兄の背広姿

矢追 隆義



古い写真を整理していると、珍しいスナップ写真が出て来た。この類の写真は、兄が全部菅谷の地に持参したはずであり、あるいは火事で焼いたかも知れず、いずれにしても小生の手許に残っていたとは非常に珍しい。

この写真は、兄が古い型の写真機に三脚を付け自動シャッターで撮ったように思う。場所は、皆様もお分りになるでしょうが、有名な猿沢池の西北、采女神社の前です。人物の説明をしますと、左端がネクタイに背広・オーバー・中折れ帽姿の珍しい兄、その右隣が母（フジエ）、続いての背広姿が兄嫁の父（成川栄三郎）、腰をかけ赤ちゃんを抱えているのが兄嫁の母（成川貞）、右端が

兄の妻（通称が輪播香、本名は静枝。※妙月かあさん）、その後ろで学帽をかぶっているのが小生です。兄の長女、輪播美ちゃんが矢追家の初孫として生まれたので、三月、両家の家族が揃って二月堂へお参りした時の帰り途

に撮ったものです。もう少し説明しますと、兄嫁の輪播香姉さんは、成川栄三郎・貞夫妻の長女で、妹（富美子）は現在長曽根寮に居られます。輪播美ちゃんは、現在五十嵐章氏の奥さんで奈良市千代ヶ丘に居られます。

なおまた、矢追家麻呂教長、矢追美壽紀大倭安宿苑理事長、杉本志津女大倭病院事務長代行も、輪播香姉さんの実子であります。この写真の時はまだ生まれていませんでした。小生は郡山中学校（今の郡高）三年生位だったと思います。

時の波蕩(その七)

自分の人生の場で…

フィールド
林 修三

それは、思いもかけず美しい清楚な記念碑のような墓石だった。「大杉栄」、小雨そぼ降る共同墓地の中で、私は改めてその名前を胸に刻んだ。

一体、人が人に貼りつけるレッテルとは何なのだろう。「無政府主義者」、そんなある種、暴力的な響きを持たされたその人物の一面だけのレッテルが、他人の無用の念を増幅させ、恐怖まで掻き立ててしまう。

その静謐な墓は、私に、激動の時代を生きた一人の男の、真の姿を知りたいという衝動を、唐突に強く起こさせた。

恐怖と希望、現実と理想、正義と邪悪、あらゆる相対する物象の内、その対立性に飲み込まれる事もなく、それらを慈しみ、抱きかかえながら自他共に生きて行く道は、果たしてこの人生の中で具現できるのだろうか。互いの偏見を捨て去り眼前にある事物や、人を素直に見つめ得る眼を持つことは、果たして出来るのだろうか。

一度しか許されない己の人生の内に、怒りを、愛執を、恐れを超越したその一日は訪れるのだろうか。答えは、今日の今、自分自身の人生の場です。出ず以外にはない。男と女、この単純な相対の醸し出す様々な愛憎劇も又、身近な、それでいて永遠のテーマの様に思える。「大杉栄」の墓と共に眠る「伊藤野枝」も、私には興味深い女性の一人である。今一人、一緒に眠る少年「橘 宗一」君と共に、「軍部」という時代の強者に圧殺された三人の靈魂は、静岡市沓谷の地に、平成という我々の時代を見つめながら、鎮まっている。小春日に、睦める蝶の、天晴さは、愛しき生の、儂さに似て

(※平成15年10月24日と11月3日に分かれて、岸田哲・文子、藤田啓子、松本モト、李章根、林修三、齋藤正宏、高橋良美、見田瑛子、杉本順一・志津女の皆さんが、大杉栄さんのお墓にお参りしました)

平成16年度 大倭会行事のお知らせ

文化行事

場所・時間・交通等の詳細については各前月までの『おおよまと』でお知らせします。

- 第277回 3月21日(日) 大聖勝軍寺と 物部守屋墳 (八尾)
- 第278回 4月18日(日) 京都 清水寺
- 第279回 5月16日(日) 高雄山神護寺 高山寺 (日帰りバス旅行)
- 第280回 6月20日(日) アサヒビール 大崎山荘美術館
- 第281回 10月31日(日)~11月1日(月) 鎌倉 鶴岡八幡宮 (一泊旅行)

文化講演会

11月13日 or 14日 詳細未定

あじさい日記

1月11日 祝会。新年にあたって考えることなどをテーマにしました。

夜、本紙編集部新年会(400号を記念して)が、若草山山焼きが間近に見える「久家」で開かれました。山を焼くのは奈良市消防団だとのこと。富雄分団の一員である矢追明昌さんはあいにく欠席でした。

1月12日 西の齋庭で、大とんど神事。好天の下、恒例の大根炊きやぜんざいも有志の皆さんによって振舞われました。皆さんへのお願として「しめ飾りに付いている金具やプラスチック類は燃やせないで、来年からは取ってきてね」とのこと。

1月15日 大倭神宮月次祭。
1月17日 「桃谷樓」にて大倭各事業所の代表者の交流会である邑交会が新年会をしました。
1月21日 大本宮拝殿において大倭殖産(株)の安全祈願祭が

大倉佐和子さん追悼
第三絃演奏会
紫鳳会主催

とき: 2004年4月4日(日)
大倭拝殿にて
ところ: 午後1時30分(1時開場)
開演: 永廣孝山・中真希子・菊重精峰
ゲスト: 永廣孝山・中真希子・菊重精峰

入場無料:
心ばかりのお茶とお菓子を
意してお待ちしています。
湯浅

お問い合わせ: 090-3282-2929

行われました。

1月23日 大倭大本宮月次祭。

1月28日 有志の呼びかけで故大倉佐和子さんの五十日祭が、大倭会館で行われました。

1月30日 F I W C の仲間の韓国キャンパーの女性5人が観光のため来日。交流の家を拠点に日本のキャンパーの所にも泊まりながら2月13日まで滞在。

2月3日 玉緒祭。昭和37年の玉緒祭の法話テープを聞かせてもらいました。(「おおやまと」紙には未掲載)

2月6日 大倭神宮月次祭。
2月8日 祝会。大倭印刷(株)のカレンダーの今月のことば「一日一夜を経るにも八億四千の思いあり」(「おおやまと」141号の「ことだま」より)の意味、また菊地洋一・相馬敬子さんが初参加されていて原子力発電についてや中近東で何年も過ごされた体験から日本人との考え方の違いの話、さらには年金についてどう考えたらよいかまで、色々なテーマの出できた会となりました。見田瑛子さんの弟の大野和寛さん(札幌市)や千葉県船橋市の遠藤浩子さん他、普段より多い参加者でした。

2月9日 法主帰幽祭。奥津城でご挨拶の後、拝殿で祭典があり、法主様81歳の日聖祭のビデオが上映されました(これも未掲載です)。「法主様自身の使命(ミコト)」について話されたところ

が特に心に残りました」と杉本順一さんの話。

愛知県豊橋市の鈴木みどりさんが来邑して一泊。

2月10日 大倭病院売店が改装され、車椅子でも利用できて本格的なコーヒーを味わえるカウンターができました。この日お披露目で喫茶倶楽部「和み」のスタッフが友情応援してコーヒーを無料サービスしました。



大倭安宿宛では
1月19日 菅原園建て替え工事第一期が始まりました。

(菅原園)
1月30日と2月3・6日 あやめ池遊園地のチャイニーズパーサーカスへ6名の住居者が参加しました。

(須加宮祭)
1月25日 24名の住居者が作業活動の賃金をもらいました。

(長曾根祭)
1月12日 デイサービスと合同

で、お寿司やオードブルのご馳走を頂いたり演奏会をして盛大に新年の集いをしました。
1月15日 定例懇談会。以前からパン食の要望があるのに対し、2月から希望者に日曜の朝食で実施という報告もありました。

あんない

で、お寿司やオードブルのご馳走を頂いたり演奏会をして盛大に新年の集いをしました。
1月15日 定例懇談会。以前からパン食の要望があるのに対し、2月から希望者に日曜の朝食で実施という報告もありました。

* 月次祭(大倭神宮)
3月6日(土) 午後2時より
大倭神宮にて。

* 大倭会主催第四二四回祝会
3月14日(日) 午後2時より
大倭大本宮拝殿にて。

* 月次祭(大倭神宮)
3月15日(月) 午後2時より
大倭神宮にて。

* 月次祭(大本宮)
3月23日(火) 午後2時より
大倭大本宮拝殿にて。

第277回 大倭会文化行事 早春の中河内、大聖勝軍寺へ

- 日時: 平成16年3月21日(日) 午前11時00分集合
- 場所: J R大和路線「八尾」駅改札前
- 交通: 近鉄学園前9:56発難波行き快速に乗車、鶴橋で乗り換えJ R環状線で天王寺へ。15番ホームで大和路線普通に乗る「八尾」下車。
- コース: 大聖勝軍寺……物部守屋大連墳……鎗矢塚……弓矢塚
車の方は直接、大聖勝軍寺においでください。駐車場有り。
昼食持参、小雨決行
- 世話役: 湯浅芳郎 電話0742-48-3389

お願いとよびかけ

法主様ご帰幽満10年を記念して大倭大本宮で計画しておられる法主様奥津城の整備造成に、何卒各人の分に応じご協力をお願いします。

大倭会会長 中西 正和

1. 奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639
口座名 大本宮特別整備基金
中西正和
2. 郵便振替口座 00900-6-241836
口座名 大倭奉賛会

(八重垣園)
1月12日 長曾根寮の新年の集いで、大正琴クラブが日頃の練習の成果を披露しました。
1月22日 俳句の会。「初詣読経の僧の勢ぞろい」「寒牡丹薦より笑みのこぼるごと」「顔浮かぶ水荃麗し年賀状」